

# 株主通信

## 2016年3月期 中間(事業)のご報告

2015.4.1~2015.9.30

高付加価値サービスの 創造・提供を通じて  
お客様の満足と豊かな社会の発展に貢献します



証券コード 3837

## キラリと光るICT企業を目指して



アドソル日進株式会社 代表取締役社長

上田 昌三

### 経営理念

- 私たちは お客様に“魅力と満足”を提供します。
- 私たちは 健全な経営を通じて“伝統と信頼”を築きます。
- 私たちは 創意と熱意により“事業と業務の革新”に挑戦します。
- 私たちは “技術と能力”を磨き チームワークで 総合力を発揮します。
- 私たちは “会社の発展” “社員の幸福” “株主の利益”をともに追求します。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、当社の2016年3月期中間期における事業概況について、ご報告申し上げます。

### 2016年3月期中間期における業績の概況

当中間期は、企業のICT投資が順調に推移し、受注も好調を維持したこともあり、中間期としては、過去最高の売上高となる4,775百万円（前年同期比106.2%）となりました。また、営業利益においても、過去最高となる298百万円（前年同期比138.9%）となりました。

売上面では、電力・ガスなどのエネルギー関連案件を中心とした主力の社会システム事業がけん引役となり拡大したことに加え、ユビキタス事業が堅調に推移しました。

利益面では、増収効果に加え、売上原価率の改善により、営業利益は期初見通しを上回る298百万円と、前年同期比で38.9%の増益、経常利益は303百万円と前年同期比41.8%の増益、中間純利益は200百万円と前年同期比49.2%の増益となりました。

総資産は、前期末比88百万円の減少となりました。主な変動要因としては、たな卸資産や繰延税金資産が増加した一方で、投資有価証券や売上債権が減少したことによりです。

負債は、210百万円の減少となりました。主な変動要因としては、買掛金が増加した一方で、未払税金等や長期借入金などが減少したことによりです。

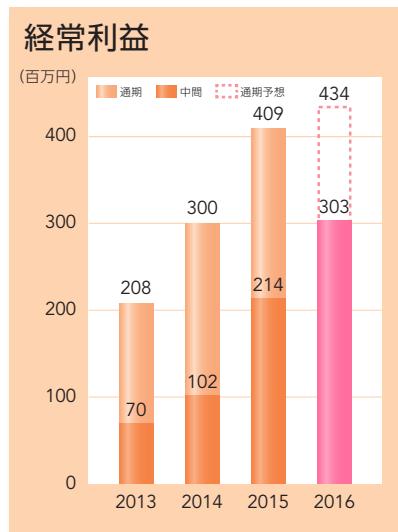
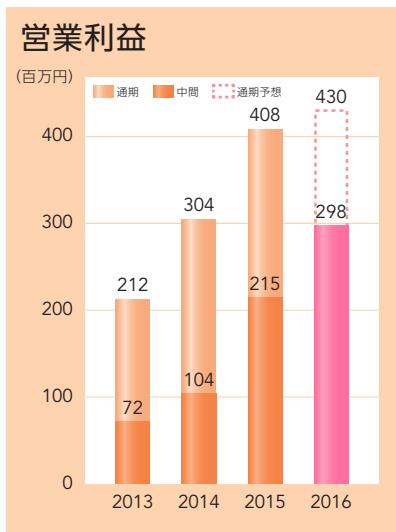
純資産は、利益剰余金の増加などにより122百万円の増加となりました。

これにより、当中間期末の自己資本比率は56.5%と、前年同期末に比べ2.7ポイントの増加となりました。

株主の皆様には、一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2015年12月

## 財務ハイライト



※1株当たり当期純利益は、2014年1月1日付の株式分割を考慮したものです。

詳細な財務情報は当社ホームページ (<http://www.adniss.jp/>) に掲載しております。

### 事業展開

当社のコア事業領域を広義の社会インフラ分野（ビジネス・金融を含む）と位置付け、事業戦略として、競争優位性を発揮し、融合・連携による新たな価値の創造に挑戦しています。

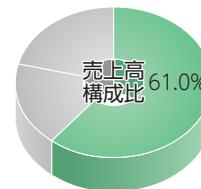
#### 社会システム事業

ビジネス分野では、第1四半期より拡大した電力およびガスの自由化関連案件は堅調に推移したほか、ネットワーク・セキュリティ監視関連や、メディカル関連等が堅調に推移しました。

通信分野では、制御分野におけるスマートメータの通信制御関連案件への対応を強化したことに伴い減少しました。

制御分野では、前期あった鉄道関連が終了したほか、プリント関連機器開発が減少しましたが、スマートメータの通信制御関連案件が順調に拡大したことに加え、航空関連や映像関連等が堅調に推移しました。

以上の結果、当事業の売上高は、2,911百万円と前年同期比16.4%の増収となりました。



#### ユビキタス事業

組込み分野では、自動車における次世代システム関連での対応領域が拡大したほか、複合機関連やメディカル関連が堅調に推移しました。

ユビキタス分野では、食品工場でのフードディフェンス対策として、ID認証セキュリティ・ソリューション（電界通信（人体通信）「タッチタグ」を用いた入退場管理システム）の採用が継続したほか、スマートメータに搭載される国際無線通信規格「Wi-SUN」に準拠したファームウェアの提供と、製品販売が堅調に推移しました。

以上の結果、当事業の売上高は、862百万円と前年同期比14.6%の増収となりました。



#### 金融システム事業

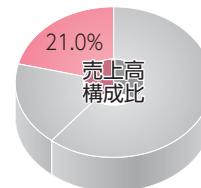
金融システム事業では、今期に入り案件の選択と集中を推進しています。

銀行・信託分野では、次世代営業店システムの次案件の立上げが遅れている一方で、信託関連は堅調に推移しました。

信販・決済分野では、信販向けクレジット・カード関連が堅調に推移しました。

その他の分野では、インターネット・バンキングは案件の終了に伴い減少、生保・損保案件は継続しております。

以上の結果、当事業における売上高は1,001百万円と、前年同期比19.3%の減収となりました。



### Q 今期の重点施策と今後の取り組みについてお聞かせください。

#### A まず、「セキュリティ」への取り組みについて、ご説明します。

16年3月期を、「セキュリティ元年」と位置付けて、「セキュリティのアドソル」ブランドの確立に向け、セキュリティ・ソリューションの取り組みを強化しています。

外部環境としては、様々な機器をインターネットでつなげる「IoT (Internet of Things)」時代の到来が目前に迫っています。それは同時に、サイバー攻撃の脅威が社会のあらゆる場所に拡大することを意味しています。

このような状況において、当社は、2015年8月に、組込みOSにおいて20年来の協業関係にある米国Lynx Software Technologies社（以下「Lynx社」）と、Lynx社の革新的なセキュリティ・ソリューション「LynxSECURE」を、日本国内のIoT機器メーカー様、産業機器メーカー様や、インフラ関連企業様などへの提案・提供に向け、協業体制を確立し、同8月7日には、『IoT時代のセキュリティ・フォーラム2015』～スマート社会におけるサイバー・セキュリティ最前線～を、東京・品川のグランドプリンスホテル高輪にて主催するなど、「LynxSECURE」の市場提案に取り組みました。

そして、10月には、「LynxSECURE」の日本国内における、独占販売権を含む総代理店契約をLynx社と締結しました。

現在、お客様と、「LynxSECURE」の採用に向け、提案・協議に継続して取り組んでいます。

また、「LynxSECURE」の技術力やお客様へのサポート体制の強化を目的に、米国シリコンバレーにR&Dセンターの設置に向けた準備を進めています。

このほか、社内にセキュリティ・ラボを設置し、技術やサービスの脆弱性に関する調査・研究、および診断サービスの提案に向けた取り組みを行っています。

これらに加え、「セキュリティ領域」でのワンストップ・サービスの提供に向け、提携先のブレインワークス社との協業により、大手企業様向けの情報セキュリティに関するコンサルティング・サービスを受注するなど、事業セグメントの枠を超えたセキュリティ・ソリューションの提案活動に注力してまいります。

#### 次に、「エネルギー領域」への取り組みについて、ご説明します。

まず、電力領域では、創業時より電力の系統制御システムに携わり、以来、技術とノウハウの蓄積と、対応領域の拡大に努めてまいりました。現在、16年4月に予定されている電力の小売り自由化に向けたシステム開発が急ピッチで進められており、当社としても、東京・関西・九州の全拠点をあげて各地区の電力会社様、また、新たに発電事業への参画を計画されている企業様向けの案件に、メーター周辺、通信制御、顧客管理等に至るまで、ワンストップにて対応しております。

また、ガス領域でも、17年4月に小売り自由化が予定されており、システム開発が着々と進められています。この領域においても、当社がこれまで培ったガス会社様向けシステム開発の技術とノウハウを最大限に発揮し、各企業様向けの対応に注力しております。

小売り自由化後には、電力領域では発送電事業の分離、ガス領域では導管事業の分離が計画・検討されており、当社の強みである、開発技術やプロジェクト管理、品質面の取り組み等を十分に発揮して、これらの需要にお応えしてゆく所存です。

今後とも、「キラリと光るICT企業」として、豊かな社会の発展に貢献してまいります。

2015年12月



## セキュリティ・ソリューション「LynxSECURE」について

「隔離する」「遮断する」をキーワードに、米国Lynx社の革新的なセキュリティ・ソリューション「LynxSECURE」を、日本国内のIoT機器メーカー様、産業機器メーカー様や、インフラ関連企業様などへ、日本総代理店として提供してまいります。



### IoT機器のセキュリティ、油断するな。遮断せよ。

壁をつくって隔離することでサイバー攻撃被害を拡大させない  
組込み型セキュリティシステム「LynxSECURE」

あらゆるモノがインターネットとつながる。IoT機器は、無用の可能性を秘めている。しかし同時に、無数のリスクに晒されているから。いまこそ、ネットワークを基盤から見直してみませんか。LynxSECUREは、セキュアな仮想化プラットフォームを構築できるセパレーション・カーネル・ハイパーバイザー。複数のゲストOSを載せながら、強固なセキュリティを実現。各OSの領域を分厚い壁で仕切ることで、被害部分を隔離し、サイバー攻撃被害の拡大を防ぎます。さあ、これから広がるIoT機器の未来、リスクを抱えていきますか。リンクを組み込みますか。



- 「サイバー攻撃被害」を拡大させない。  
ハードウェアのリソースを各ドメインにわけること、サイバー攻撃の被害を最小限にします。仮想デバイスサーバーによりドメイン間で共有しているリソースへ安全にアクセスすることができます。
- 「安全なアクセス管理」を確保する。  
独自の暗号化プロセスにより各ドメイン間で安全に通信することができます。リングプロテクションの特種レベルの高い権限のみを利用しているため、LynxSECUREへの不正なアクセスからプロテクトします。
- 「メモリー占有領域が小さい」組込み向けハイパーバイザー。  
フットプリントが小さいため、PLCなど、メモリー容量の小さな機器にも搭載できます。
- 「OSレス」のシステム構成が可能。  
LSAはOSレスのアプリなので、サイバー攻撃のターゲットとなるOSの脆弱性を回避できます。



東京本社：東京都港区港南4-1-8 リバーサイドビル  
福岡支店：福岡市東区 福岡センター  
<http://www.adniss.jp>



(2015年9月28日付 日本経済新聞朝刊に新聞広告を掲載しました。)

## 『IoT時代のセキュリティ・フォーラム2015』を8月7日に開催しました

『IoT時代のセキュリティ・フォーラム2015』～スマート社会におけるサイバー・セキュリティ最前線～』を8月7日（金）に東京・品川のグランドプリンスホテル高輪にて開催しました。

本フォーラムでは、「LynxSECURE」のご紹介と共に、サイバー・セキュリティについての講演を頂きました。

### ◆ 開会あいさつ

当社、代表取締役社長上田より、開会のご挨拶をさせて頂きました。



### ◆ 西川徹矢弁護士ご講演

#### 「サイバーセキュリティあれこれ」

「我が国の情報セキュリティ政策のこれまでとこれから」として、サイバーセキュリティの枠組みや推進体制および戦略についてご講演頂きました。

### ◆ 米国 Lynx社 Gurjot CEO による「LynxSECURE」のご紹介

#### 「IoTセキュリティを牽引するLynxSECUREのご紹介」

LynxSECUREの概念や仕組みについて、同時通訳にてご紹介させて頂きました。



### ◆ LynxSECUREデモ

#### 「IoTのセキュリティ対策事例」

LynxSECUREを利用した適用例について、「Endpoint」「Gateway」の2つのデモンストレーションをご紹介させて頂きました。



### Lynx Software Technologies, inc. のご紹介

- 会社名：Lynx Software Technologies, inc.
- 本 社：米国 Silicon Valley, カルフォルニア州
- 支 社：ヨーロッパ支社 ロンドン / イギリス
- 社 長：Gurjot Singh (代表取締役兼 CEO)
- 会 長：Dr. Inder Singh

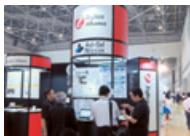


- 設 立：1988年に(旧社名)Lynx Real Time, Inc 設立
- 事業内容：高パフォーマンス、信頼性、安全性とセキュリティが求められる市場(航空・宇宙・防衛)におけるリーディング企業として、オープンスタンダードな組み込みソフトウェア製品を提供

# Topics&Calendar トピックス&カレンダー

## 2015年

- 2015年5月
- 「ワイヤレスジャパン2015」に出展  
5月27日～29日  
東京ビッグサイトにて



- 「第11回GISコミュニティフォーラム」に出展  
5月28日～29日 東京ミッドタウンにて

## 2015年7月

- 「エンタープライズアジャイル勉強会」の発足
- 「ライトダウン・キャンペーン2015」に参加  
6月22日、7月7日

## 2015年9月

- 「フードセーフティジャパン2015」に出展  
9月30日～  
10月2日  
東京ビッグサイトにて



## 2015年11月

- 「IoT Technology 2015」に出展  
11月18日～20日  
パシフィコ横浜にて
- 2016年3月期第2四半期決算発表  
11月6日

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

## 2015年6月

- 「ビジネスショウ&エコフェア2015」に出展  
6月17日～18日  
福岡国際センターにて
- 東京ベイ・クリーンアップ大作戦 2015に参加  
6月13日  
お台場海浜公園にて

## 2015年8月

- 米国Lynx Software Technologies社と、「協業確認書」の取り交わし 8月6日
- 「IoT時代のセキュリティ・フォーラム2015」～スマート社会におけるサイバー・セキュリティ最前線～を、東京・品川のグランドプリンスホテル高輪にて開催  
8月7日



## 2015年10月

- 「日本経済新聞社主催 日経ビジネスイノベーションフォーラム「いま、企業に求められる危機管理～「サイバー」「フィジカル」…セキュリティ視点から企業経営を考える～」にて講演  
10月2日 日経ホールにて
- 「モノづくりフェア2015」に出展  
10月14日～16日  
マリンメッセ福岡にて

## 2015年12月

- 2016年3月期  
中間株主通信発行
- 中間配当金のお支払い

## 2016年 (予定)

1月

2月

3月

5月

6月

## 2016年2月

- 2016年3月期 第3四半期決算発表  
2月上旬

## 2016年3月

- 「セキュリティショウ2016」に出展  
3月8日～11日

## 2016年5月

- 2016年3月期 通期決算発表  
5月上旬

## 2016年6月

- 定時株主総会
- 2016年3月期 期末株主通信発行
- 期末配当金のお支払い

## 株主優待

### 対象株主

毎年9月30日、3月31日の株主様（年2回）

### 時期

100株以上2,000株未満：12月、6月に優待品を発送予定  
2,000株以上：11月、5月にカタログを発送予定

### 優待内容

#### ● 100株以上2,000株未満

「緑の募金」付き  
クオカード(500円相当)



100株以上500株未満 500円相当  
500株以上1,000株未満 1,000円相当  
1,000株以上2,000株未満 1,500円相当

#### ■ 保有期間特典

保有継続期間1年以上で、クオカード1枚（年間2枚）を追加贈呈

※保有継続期間は、毎年9月30日および3月31日を基準日として、同一株主番号で1年以上継続して保有されている期間。（同一株主名簿に連続3回以上記録）

※このクオカードには、社会貢献寄付金として「緑の募金」が付いており、公益社団法人国土緑化推進機構へ寄付されます。集められた寄付金は、森林整備・緑化推進事業・森林に関わる人づくりに活用されています。

#### ● 2,000株以上

「緑の募金」付きクオカード又は「紀州梅ギフト」から選べる  
株主優待カタログ(3,000円相当の商品から1品)を贈呈



紀州五代梅  
550g・約24粒



紀州五代の夢  
5粒×2種（木箱）



祝梅  
230g×2種



梅三華  
150g×3種



紀州五代梅の心  
10粒（木箱）



木熟梅ゼリー  
「梅千家」8ヶ入り



紀州梅五代  
梅肉エキス100g



五代庵  
梅酒3本セット  
各300ml

#### ● 商品の発送

お申込はがきが到着した日から2週間程度でお届けします。  
最終申込期限までに、商品のお申込がない場合は、クオカードをお届けします。

※写真はイメージで実際の商品と異なる場合があります。

## ● 配当について

株主還元については、配当性向30%以上を目標として、中間及び期末に配当を行う（年2回）という基本方針を掲げております。

当事業年度の中間配当金につきましては、1株につき7円とさせていただきます。

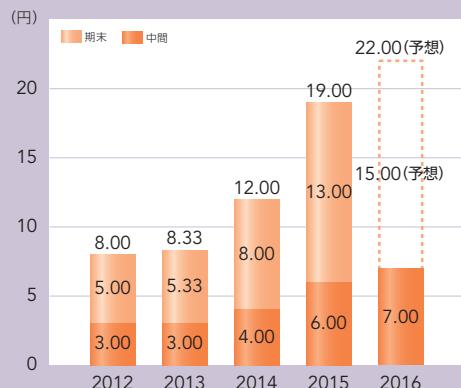
当事業年度の期末配当金につきましては、15円を予定しております。

年間配当金は1株当たり22円となります。

※2014年1月1日付けで、1株につき3株の割合で株式分割しています。

※分割以前の1株当たりデータは、3分割の割合で遡及修正しております。

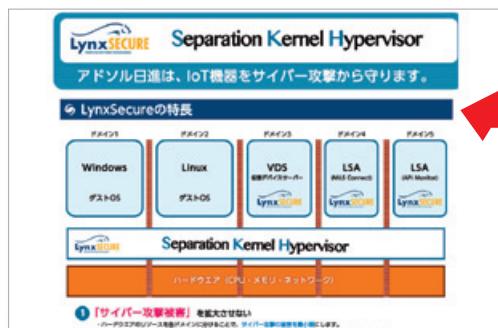
## 1株当たり配当金の推移



## ● ホームページのご案内

当社ホームページ (<http://www.adniss.jp/>) でも、株主・投資家の皆様向けに配当や株主優待の情報を逐次提供しております。

又、財務・業績情報、IRライブラリー等の内容も充実しておりますので、是非ご覧ください。



当社が日本国内において独占販売、および総代理店として提供している、米国Lynx Software Technologies社の革新的なセキュリティ・ソリューション「LynxSECURE」の特集記事 (<http://www.adniss.jp/lynxsecure>) を掲載しました。



## 会社概要 (2015年9月30日現在)

会社名	アドソル日進株式会社
英文社名	Ad-Sol Nissin Corporation
所在地	東京都港区港南四丁目1番8号
設立	1976年3月13日
代表取締役社長	上田 富三
資本金	4億9,975万円
事業内容	独立系のICT企業として、社会システムを中核に企業や公共向け情報システムの開発、及びソリューションの提供並びに商品化と販売
社員数	495名
拠点	東京本社 <支社>関西、九州 <開発センタ>仙台

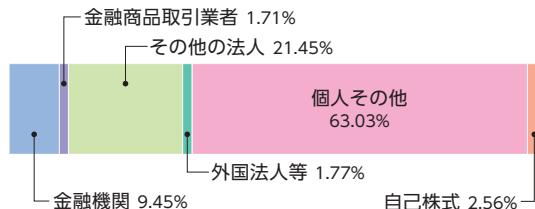
## 株式の状況 (2015年9月30日現在)

発行可能株式総数	14,400,000 株
発行済株式の総数	4,565,730 株
株主総数	3,813 名
大株主	

氏名又は名称	所有株式数(株)	持株比率(%)
アドソル日進従業員持株会	604,500	13.23
株式会社インテック	585,000	12.81
高原慶一郎	270,000	5.91
日本プロセス株式会社	247,000	5.40
株式会社みずほ銀行	186,000	4.07
株式会社三菱東京UFJ銀行	138,000	3.02
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	82,900	1.81
今藤一行	75,000	1.64
海瀬希予史	75,000	1.64
三菱電機コントロールソフトウェア株式会社	66,000	1.44
計	2,329,400	52.35

持株比率は自己株式(116,732株)を控除して計算しております。  
又、自己株式は上記大株主から除外しております。

## 所有者別株式分布状況 (2015年9月30日現在)



## 役員 (2015年9月30日現在)

代表取締役社長	上田 富三
常務取締役	田井 史徳
取締役	田中 一
取締役	後関 和浩
取締役	篠崎 俊明
社外取締役	星野 将史
社外取締役	峰野 博史
常勤監査役	三野 裕彦
社外監査役	能口 誠一
社外監査役	山形 宗紀

## 株価の推移 (2013年4月1日~2015年9月末)

2013年4月1日を起点とした当社と日経平均、日経JQ平均の株価の推移を示したグラフです。2013年4月1日の株価を100として、その後どのように変動したかを示しています。



## 株主メモ

証券コード	3837
金融商品取引所	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告 ( <a href="http://www.adniss.jp/">http://www.adniss.jp/</a> ) ただし、やむを得ない事由によって電子公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載致します。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

## 単元未満株式の買増及び買取制度について

買増制度の概要	株主様がご所有の単元未満株式を単元株式（100株）へするために必要な数の株式を当社より買増する制度です。 ※3月31日・9月30日・その他機構が定める株主確定日等を含む各々それ以前の10営業日の間は受付を停止させていただくほか、当社が別途、買増請求期間を設ける場合がございます。詳細につきましては、お取引のある証券会社等にご確認ください。
買取制度の概要	株主様がご所有の単元未満株式を当社が買取する制度です。
手続方法	ご所有の株式を <b>証券口座</b> で管理されている株主様の場合 → 株式を管理されている <b>証券会社</b> へお問合せください。 ご所有の株式を <b>特別口座</b> で管理されている株主様の場合 → <b>みずほ証券</b> 本店及び全国各支店 <b>プラネットプース</b> (みずほ銀行内の店舗) <b>みずほ信託銀行</b> 本店及び全国各支店 (連絡先：0120-288-324フリーダイヤル)

単元株式（100株）にすると次の事項が可能となります。

- 株主総会での議決権行使が可能となります。
- 当社の株主優待制度を受け取ることが可能となります。
- 市場で取引することが可能となります。

## 今後の見通しに関する注意事項

本書における将来予想に関する記述につきましては、当社の目標や予測に基づいており、リスクや不確定な要素等の要因が含まれております。

将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になる可能性があります。

## 配当金のお受け取りについて

配当金領収証による配当金のお受け取り期間は2016年1月8日までとなっております。 口座振込をご指定されていない株主様は、同封の中間配当金領収証をご持参のうえ、お近くのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局（銀行代理業者）にてお早めにお受け取り願います。
<b>お受け取り期間が過ぎたら・・・</b>
お受け取り期間を過ぎますと、ゆうちょ銀行、郵便局でのお受け取りはできません。 配当金領収証の表面のお届出印欄にご押印のうえ、みずほ信託銀行、みずほ証券、みずほ銀行の各本店及び全国各支店にお持ちください。 ※みずほ証券は、取次のみとなります。
<b>配当金領収証を紛失されたら・・・</b>
みずほ信託銀行証券代行部までご連絡ください。その際には、お支払の手続きに時間を要しますので予めご了承ください。
<b>銀行振込等のご指定をおすすめします</b>
配当金領収証による配当金のお受け取りは、お忘れになることもありますので、安心・確実な銀行振込等によるお受け取りをおすすめ致します。

# アドソル日進株式会社

〒108-0075 東京都港区港南4丁目1番8号 リバージュ品川  
TEL：(03) 5796-3131 (代)



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォントを  
採用しています。

